赤松大勳　佛教學者。明治七年五月兵庫縣飾磨郡西中島村生れ、三十八年三月十日歿（一八七四―一九〇五）。號天風、鹿村。法林寺住職川崎了溢の次男、同郡妻鹿村西樂寺赤松祐秀の養嗣子。眞宗大學卒。在學中佐々木月樵とは寄宿舍で同室だつたといふ。卒業後は眞宗東京中學舍監、倫理教授。豫てよりイソップ物語、ラ・フォンテーヌの物語集が、インド佛典中に散在する教訓、譬喩、因緣譚に由來するとして、童話風に意譯した六十六篇を『修養小話』（明治三十五年刊）と題し、南條文雄、吉田賢龍の序文を附して出版。時に日露戰役に際し、陸軍歩兵中尉として出征、滿洲奉天附近で戰死した。

陣中より送附せられた訂正增補を施し、七十七篇を收めた『修養小話―印度古代お伽草紙』（明治三十九年十二月二十六日森江分店）は遺稿となつた。